



## 謹賀新年

### 2021年 新年のご挨拶

印刷情報メディア産業労働組合連合会

中央執行委員長 佐藤 久恒



謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

印刷労連構成組織の組合員とご家族の皆様、そして組合役議員の皆様には、健やかな初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より印刷労連の諸活動に対しまして、ご理解・ご尽力をいただいております事に改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は世界経済に大きな影響を与えるだけでなく、産業・文化・教育等に様々な制限と変更を余儀なくされております。

日本においても昨年の春に緊急事態宣言が出され、私たちの日常が非日常に変わるとともに、働き方や生活様式が急変することとなりました。人と人との接触を7割以上減らすことが求められ、在宅勤務を中心として、出社制限が続きました。一方で印刷産業は社会インフラを支えている製品の製造に携わっているとの考えから、製造部門を中心に出勤し、生産活動に従事してきました。

幸いにも構成組織において、社内クラスターは発生しておらず、感染予防に対する労使の意識の高さと対応力に敬意を表します。

私たち印刷産業は新型コロナ以前から、IT化の進展に伴うデジタルシフトによるペーパーメディアの縮小といった構造的な問題を抱えており、各企業が得意分野や技術を活かし様々な構造改革に取り組んできました。コロナ禍において、デジタルシフトがより一層促進されており、印刷産業を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。そういった中において、企業労使がお互いの信頼関係に基づき生産性三原則である、「雇用の維持・拡大」、「労使の協力と協議」、「成果の公正な分配」に取り組んでいくことが大切です。そのためには、労使パートナーシップの考え方を尊重し、労使で課題を共有化して方向性を見つけていくことが重要となります。

コロナ禍において、私たちの働き方も大きく変わりました。これまでは対面で行われていた業務が在宅勤務を中心としたテレワークやICT技術を活用したニューノーマルな働き方に変わり、常にソーシャルディスタンスを意識した行動が求められることとなりました。

昨年の10月に印刷労連として「生活・就労アンケート」を実施し、コロナ禍における働き方について調査しました。テレワーク勤務は、業務効率の向上や多様で柔軟な働き方の実現といった「働き方改革」の推進に寄与する部分もありますが、一方で仕事と生活の切り分けの難しさや労働時間管理の有り方、職場のコミュニケーション不足といった新たな課題も生じています。こういった課題についても労働組合として、取り組んでいく必要があります。

コロナ禍によって印刷労連の諸活動も様々な制約を受けました。当初は各種委員会や諸会議、イベント等は中止か書面による持ち回り開催となりましたが、withコロナにおいて、WEBでの開催やソーシャルディスタンスを取った対面での開催も実施しています。構成組織においても同様かと思えます。今年も感染予防に留意しながらの諸活動となりますが、本部・地方協議会・構成組織がニューノーマルでのコミュニケーションの充実を図りながら運動方針に沿って進めていきたいと思えます。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症が1日でも早く収束することを願うとともに、皆様のご健康とご多幸を心からお祈りいたします。

引き続き印刷労連の諸活動に対しまして、ご理解とご協力を願ひ申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も宜しくお願い申し上げます。

# 地方協議会青年委員会報告

各地方協議会の青年委員会より 2019 年度の報告・2020 年度の抱負等を語っていただきました。

## 宮城地方協議会青年委員会

2020 年度は残念ながら、青年委員会として活動ができていません。コロナ禍でどんな活動ができるのか模索が続いています。

春闘をテーマとして研修会を予定していますが、運営方法や組織交流について、社会状況を考慮しつつ、思考を広げ知恵を出して実行可能な活動にしたいと思います。

青年委員会が得意とする自由な発想と創造力で、不安なこの時期を乗り越えます。



## 関東北部地方協議会青年委員会

2020 年 11 月 14 日（土）にて総会に代わる拡大幹事会を開催しました。新型コロナウイルスの影響により、オンライン併用での開催となりましたが、各構成組織より出席いただき、2019 年度の活動の振り返りと今期の活動方針ならびに予算について確認をいただきました。2020 年度は特に、このコロナ禍の中でも地協青年幹事の情報共有は密に連携を行っていくこと。また、この状況下で組織交流のイベント案もどうしていくかといった議論も、青年だからこそ言える、まずはやってみて・・・とにかく行動してみようと前向きなご意見もいただきました。その点では、心構えは共有できたのかなと実感しております。活動を展開していく上で引き続きご支援よろしくお願い致します。



## 関東南部地方協議会青年委員会

現在、コロナ禍により、構成組織の青年層組合員を対象とした学習会や、宿泊による組織交流会が開催できない状況にあります。これまでは中央メーデーでの模擬店の運営で青年委員会としてのチームビルディングを築いてきましたが、2020 中央メーデーはコロナ禍により模擬店出店も無く、青年幹事間の横の関係もやや希薄になっています。

今年度は ZOOM や対面での幹事会を実施し、前年度と同様に SDGs を通じて横の繋がりを強固なものにするべく、団結して取り組んでいきたいと思っています。そして、SDGs への理解を更に広げる活動として、構成組織の協力を仰ぎ、SDGs のカードゲーム等を用いた学習会を実施する予定となっています。



## 石川地方協議会青年委員会

石川地協は三単組で構成されており年二回のイベントを企画しています。

石川地協は他の地協に比べて若い層が多いのでイベント等もボルダリングやレーザークラフト体験等参加しやすいようなイベントを心がけています。

青年総会が終わって今年も頑張ろうといった矢先、コロナウイルスが発生し進行中だったイベントがすべて中止になり、完全に出鼻をくじかれてしまいました。2019 年度はどうしていいかわからず活動は終わってしまい、交流を図ることができませんでした。ですが、2020 年度は総会をコロナ対策しながら開催することができたので少しホッとしています。とはいえ未曾有の状況が続き、自分のことを考えるだけで精一杯でほかのことを考える余裕ができないのが現状です。ですがこのような特別な状況でなくても今後、新しい環境に身を置くことは沢山出てきます。そのようなときに自分の考え方の行動範囲を広げていくことが大事だと思います。コロナの影響で世の中の考えは変わってきていますが新しい発見も生まれていると思います。今期もどうなっていくかは見通しが立っていないのでイベントが開催されるのかもわかりませんが、そんな中で環境の変化に対し新しい形で対応していければと思います。最後に、一日も早く新型コロナが終息して安心して暮らせる世の中になることを願っています。



## 愛知地方協議会青年委員会

2019年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年2月13日開催の青年委員研修会を最後に、印刷労連や各構成組織のコロナ対応指針を鑑み、今日に至るまで活動を自粛しています。イベントや研修会がこのような状況下で未開催に至る中WEBを用いたイベント案等も模索しましたが、組合活動の根幹である「対面」の基本ポリシーを貫き、現状は一日も早い終息に期待しつつも、活動再開時に向け今の内から様々な企画など構想を練る期間との位置づけをしています。今期は活動自体が停滞することの無いよう「非対面」でのベストな交流方法等主体的に知恵を出しながら構成組織間の連携を深める活動を展開していきます。



## 京滋地方協議会青年委員会

2019年度では2019年11月に引き染め体験（引き染めとは反物を伸ばして、引き刷毛を用いて生地を染めていく技法）のレクリエーションを開催。体験中では染めた生地の感想を共有することで単組を超えての交流も生まれ、染めた生地は「がま口ポーチ」等に加工して後日送付しました。

2020年2月には落語家の笑福亭笑利さんを講師に学習会を開催。業種は異なりますが年代の異なる方へのコミュニケーションの工夫等をお話いただきました。また実際に落語も実演いただき、貴重な学習会になりました。

2020年度では新型コロナウイルスの影響で前期に実施できなかったスポーツイベントをソーシャルディスタンスも考慮しながら、開催できないかと検討しています（例：eスポーツやバブルサッカー等）。また学習会も屋外でできるアウトドア的な要素を含んだものにできないか計画しています。



## 大阪地方協議会青年委員会

大阪地協青年委員会委員長の高野と申します。本年度から委員長として任命されましたが、幹事としてはまだ3年目です。さらに昨年度は新型コロナウイルスの影響で活動がほとんど無く、まだ右も左も分からないまま委員長になってしまいました。（笑）

新型コロナウイルス感染症の終息の見通しが未だ立たない中ではありますが、大阪地協青年委員会の活動の3本柱である、ヤングフォーラム、レクリエーション、女性行事についてもこんな時だからこそ楽しく行っていきたくと思っています。また、初めての経験ではありますが持ち前の「なんでもやってみる精神」で何でもやってみようと思っていますのでご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。



## 熊本地方協議会青年委員会

2019年度は、コロナ禍の影響によりイベントの自粛や中止を決断する様な状況になりました。現在も、日本国内で新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの実施を行うことは極めて難しい状況にあります。

そんな中でも2020年度は、感染拡大の防止策を十分に考慮しつつ、感染症の動向を注視し、幹事や青年幹事とで連携し青年幹事会やイベントの実施ができる様に務めて参ります。



UNI Global Union (ユニグローバルユニオン) は、情報通信技術の発展や急速なグローバル化に伴う、産業の融合、経済のグローバル化等の課題に、各国の労働組合が連携を強化して対応するために、2000年1月、4つの国際産業別労働組合(グローバルユニオン)が統合して結成された、サービス産業のグローバルユニオンです。世界150カ国、900組織、2,000万人のサービス産業で働く労働者を代表しています。本部は、スイスにあり、世界組織の下に、4つの地域組織があります。アジア太平洋地域(UNI Apro: ユニアプロ)の本部はシンガポールにあります。

UNIには地域組織の他に、様々な産業を代表する「業種別部会」があります。今回、佐藤中央執行委員長が参加した印刷・パッケージング部会へは、日本からは4組織が加盟しています。委員会では、コロナ禍に見舞われた過去1年の世界各国の印刷・パッケージング産業の動向や、コロナの影響、労働組合の取組みが共有されました。佐藤中央執行委員長は日本の加盟組織を代表して次の通り、報告しました。

●日本の印刷産業におけるコロナ感染症(COVID-19)の影響

政府による緊急事態宣言が出された5月が最もコロナ感染症(COVID-19)の影響を受けましたが、印刷産業は生活必需品の印刷を始め、国内のインフラを支えている製品の製造に関わっていることから、大きな影響を受けている産業に比べれば、まだ落ち込みは少ないように感じています。

●日本の印刷産業労働者の状況

4月・5月の第一次感染拡大局面においても、仕事量の減少による生産調整はありましたが、感染を予防するために印刷機を止めて労働者を自宅待機にすることは殆どありませんでした。しかし、出社することにより、感染リスクに対する精神的なストレスは少なくありません。スタッフ部門は4月に政府より出勤者数の7割から8割の削減を求められ、多くの方が在宅勤務を含むテレワーク勤務となりました。

●労働組合の対応

印刷産業の産業別組織には中小企業の組織が多く、これまでもペーパーレス化やデジタル化によって既存印刷が減少しているところに、更にコロナ禍によって業績の低迷が続いています。今現在、構成組織に倒産や従業員解雇等の報告はありませんが、希望退職を予定している企業もあり、労働組合としては組織内での情報交換をより密に行って連携を取っています。

一方、国営企業労組組織は銀行券(紙幣)や旅券の製造等を行っており、その取り扱い物の特殊性から、コロナ禍においても事業継続を行っています。しかし、キャッシュレス化や通貨のデジタル化に向けた研究が盛んに行われており、労働組合もその対応への課題に取り組んでいます。

最後に、日本の労働組合は企業別労働組合が主体となっています。コロナ禍において、それぞれの企業労使がこの難局を乗り越えるために、お互いの信頼関係に基づき様々な知恵を出し合い施策に取り組んでいる状況であります。



オンラインにて報告する  
佐藤中央執行委員長

働くを支える 暮らしに備える 生活を豊かに

☆印刷労連 ☆こくみん共済coop ☆労働金庫

— 編集後記 —

今号は編集人の私の我儘で、青年委員会の報告や今期の抱負等を記事にさせていただきました。関係各位の皆様におかれましては急なお願いとなってしまう短納期の中、ご対応いただき誠にありがとうございました。

2021年が始まりましたが、新型コロナ終息の気配が感じられず毎日報道ニュースが飛び交っております。このような中、私たち印刷産業に携わる者として明るい話題といたしましては、やはり昨年ブレイクした『鬼滅の刃』ではないでしょうか。この社会現象に引き寄せられて、コミック本の良さが再認識されることを願うばかりです。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

今年も「全集中」してガンバローッ!

【教育・広報委員会 勝又紀智】